



## これからの時代に育てたい力について

### 兵庫県内研修所連盟研究発表大会 記念講演

「これからの時代に育てたい力について～個別最適な学びと協働的な学びのポイントから～」

京都大学 准教授 石井 英真 氏 より

- 「一斉一律」をゆるめ、固有名の一人一人の学びやすさや学びたいことを尊重する機会を、カリキュラムや学校生活の全体を見通しながら保障していく。多様性が拡大し、そろいにくい前提でのインクルーシブな教室づくりが求められる状況があるが、それは共通性の追究を断念するものではない。
- 子ども一人一人の学びたいことを尊重し、かつ一人一人を見守り(監視するのではない)、柔軟にコーチング的にフォローする余裕を教員の側に生み出すべく、子どもに委ねるための仕掛けや環境づくりに力を入れる。子どもが学習材に向かうから安心して手放せる。手放せるから子どもが見える。
- 図工的な「個人作業の共同化」と部活的な「(学びの舞台で節目を創る)学びのプロジェクト化」の両方を意識して、授業と自習・自学の間で、学校の学びの時間と空間とつながりを柔軟化する。
- 「課題把握⇒自力(個人)解決⇒集団解決⇒まとめ」の流れを、1時間ではなく数時間単位や単元単位で運用し、課題を明確化したうえで、個人学習とペア・グループ・集団学習もごちゃまぜの複線的で柔軟な学びの展開も必要に応じて取り入れる。一人一台端末という環境の良さを生かし、ホンネが見えにくい今の子どもたちの学びやすさに合った、彼らの地が出る学びのテンションを探る。

### 英語教育に係る公開授業及び研修会 (日高西中学校区)

小学校から中学校へのスムーズな英語教育のつながりについて中学校区で研究されました。各校長先生をはじめ、小中の先生方が抱える課題の解決に向けて熱く交流されました。

「小中連携の英語教育」(奈良教育大学 高木浩志氏)

ー書くことを意識した取組を小中につなげるためにー

#### 1 教員間の相互理解と連携

- ・授業参観と情報交換
- ・共通理解の場の設定
- ・指導計画の共有

#### 2 指導内容の系統性とギャップの軽減

- ・系統的な指導計画の作成
- ・「聞く・話す」から「読む・書く」への接続
- ・文字指導への意識

#### 3 「書くこと」を意識した具体的な指導の工夫

- ・モデル文の活用
- ・ワークシートやICTの活用
- ・思考を深める活動
- ・振り返りの重視

ぜひ、各中学校区で工夫を！

### ふるさと教育に係る公開授業及び研修会 (新田小学校)

コウノトリ、ジオパーク、産業文化を起点に校区のヒト、モノ、コトを学習材にした探究的な学びを展開されました。校内研修では、先生方がワクワクしながら研鑽を積み重ねていました。

令和時代の「ふるさと教育」の充実に向けて

(武庫川女子大学 酒井達哉氏)

#### ●地域の特性を生かした「ふるさと学習」の

##### 工夫・改善のポイント

- ・地域貢献につながるテーマや活動の設定
- ・各教科等で身に付けた知識や技能を意識的に活用させる。
- ・「考えるための技法・思考スキル」を適切に選択し活用する。
- ・インターネットと端末を利用して、もの、人と交流
- ・振り返りを核とした子ども自身の学びの創造
- ・新たな探究的な学びへ



これから育てたい力の育成に向けて、各校において、様々な研修が取り組まれています。

学校だよりやオープンスクール等でも発信しています。保護者、地域の皆さまもお子様や地域の子どもたちの学びを引き続き支えていただきますようお願いいたします。